

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390300048		
法人名	社会福祉法人 鶯園		
事業所名	グループホーム津山 南館		
所在地	岡山県津山市小田中138-1		
自己評価作成日	平成29年3月3日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&IjigyoSoCd=3390300048-00&PrefCd=33&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート		
所在地	岡山県岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO会館		
訪問調査日	平成29年3月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様が笑顔で元気に過ごしていただけるように、日々の生活を支援しています。食事作りの好きな利用者様の生き生きとした姿が見たくて、毎月みんなで食事作りの行事をしています。出来る所を分担していただき、野菜を切ったり、きのこをほくしたり、焼いたり、炒めたり...今年はぼた餅、桜餅、よもぎ団子、おにぎり、目玉焼き、ハンバーグ、カレーライス、お好み焼き、餃子、冷やし中華、お鍋、ホットケーキなど「みんなで作ると一層美味しい」と言って笑顔で召し上がられました。利用者様の希望もあり、昔懐かし「一銭洋食」も作ってみました。お花見は昨年は三休み公園、今年は湯郷のオルゴール館見学後花見をしました。理事長宅の温故祭見学、いちご狩りに出かけたり、夏野菜の植え込みをしていただいたり、2回の避難訓練と災害想定し非常食体験をして缶詰を紙皿に盛りつけていただきアルファ米を食べました。あじさい園、地域の納涼祭、北館と合同での夏祭り、ご家族を招待しての合同敬老会、秋祭りのだんじり、消防隊の音楽会、紅葉狩りには湯郷の足湯など、皆さんお出かけが好くてとても喜んでいただけました。幼稚園の運動会や発表会、小学校の交流会、高校生のボランティア。お正月には神社に初詣して、たき火の側で甘酒をいただきました。近所の方と毎年とんどをしていますが、今年は大雪で出来ませんでした。2ヶ月に1回の語りボランティアが来られるのも楽しみになっています。毎日頑張っていたいてるのは、10分間のホール歩行！それぞれのペースに合わせて歩いています。少しずつ機能低下、認知度の低下はありますが、表情よく生き生きとして過ごしていただけるよう一人ひとりの状態にあったケアを職員一同頑張っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

津山市のほぼ中央、津山駅から北へ交通の便の良い高台に2ユニットのホームがある。双方の管理者は、経験年数も長く、両館共通の運営理念の実践を積み重ねてきている。大きな行事や運営推進委員会、ボラの受入等は合同で行い、運営についてはそれぞれのポリシーを持って独自に行っている。管理者が「皆と一緒に楽しもう」を呼びかけ、軽度から重度の利用者が何事も一緒に楽しんでいる。食事前にCD「マーチ」をかけて「それワンツー、ワンツー」と号令掛けながら全員で10分間食卓周囲をウォーキングする。職員に手引きされる人、シルバーカーを使用の人もあり、全員が足腰を鍛えるという目的意識をしっかりと自覚しながら行っていた。歌や作品作りにも全員が積極的に参加している。職員が作った昔の生活道具の写真を見て「こんなのを使うようなあ」と利用者同士で話が弾んでいた。このホームは職員間の統一したケアの方向性を堅持しており、2年毎に訪問してみて、変わらない温かさやケアの確かさを感じさせてもらっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホールに掲げた理念の通り家庭的で健康に、そしてご家族との良きパイプ役で、皆様が安心して過ごせるようにと日頃のケアを行っています。	家庭的、安心、健康管理、利用者と家族の良きパイプ役となることを理念として掲げており、協力医との連携で利用者の健康を守り、「あなたの事を私は大切に思っていますよ」と利用者の安心感を守っている。職員の努力により、ある利用者と家族の確執が解け、面会が増えたという事例も聞くことが出来た。一日の大半は全員で作品作りや歩け歩け実践し、明るく、元気に過ごしている姿を見ることが出来た。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年、近くの幼稚園、小学校の交流があり、今年は運動会や発表会、地域のお祭りに行きました。高校生のボランティアも来て交流して下さいました。神社にも出かけ地域の皆様とお会いし、交流を深めております。	地域の生活区域(道路)かたは少し隔たりがある位置にホームがあるので、ホームのパンフレットを配る等してホームへの理解を求めている。地域行事や小学校、幼稚園との交流は定着しており、多くの交流行事の記録写真が壁面で紹介されていた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年来ていただいている小学校の交流会では、利用者が年々出来ることが少なくなっているが、出来ることを探り楽しめる方法を一緒に考えることが出来ました。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営会議では市役所、地域の方、ご家族様に来ていただき、日頃の様子を伝え、その時々課題について話し合っています。結果を職員に報告、検討を行いサービスの向上に活かしています。	行政担当者、町内会長、民生委員、家族、利用者、ホーム関係者の参加により、情報交換を行っている。行事や日常生活の様子のスライドをテレビで委員に紹介している。鑑賞している委員は、利用者の沢山の笑顔から元気をもらい、暮らしの様子が手に取るように分かると高く評価している。避難訓練には地域の人が積極的に参加しており、ホームに対する理解が推進委員会を通じて広まっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営会議に出席していただき、日頃の様子を伝えたり、地域の情報を教えていただいています。困難事例の相談をし、助言していただいています。	運営推進会議には毎回参加してもらっているのので、ホームの実態をよく理解してもらい、相談も行きやすい。利用者の中には入所後も行政との必要な事例もあり、十分に連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者の表情や行動に常に気を配り、早めに対応するようにしています。不安や困惑に対して、安心できる声かけに努めています。施設内外の研修に参加し正しい理解に努めています。困難事例時身体拘束をしないで危険回避できるように職員全員で話し合い取り組んでいます	このホームでは、「人間らしくあること」(あなたのことを私は大切に思っていますよ)という「ユマニチュード方式」を採用している。管理者がこの方式を受講し職員に伝達しているのので、職員は正しく理解し実践している。「皆で一緒に・・・」を実践しているが、強制や抑制間は皆無で、全員明るく、楽しく暮らしている姿を見ることが出来た。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	認知症ケア「ユマニチュード」2名、高齢者虐待防止研修会ほぼ全員の職員が参加し、認知症を正しく理解するように努めています。利用者一人ひとりの状況を把握し職員間で共有しストレスのない環境をめざしています。(27年目標達成計画実施)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度についての研修に参加し、知識の向上、理解に努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に契約書、重要事項説明書の内容を理解、納得していただけるよう説明し、同意していただいています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置しています。面会時又は電話連絡時、運営会議の場で意見要望を尋ね、ミーティングにて話し合い、反映させています。	毎月、コメント入りの暮らしの写真満載の「お便り」を家族に届けているので、「家ではこんな笑顔見たことない」と、大変喜ばれている。家庭内での親子の確執を職員の努力で解消した事例等から、普段からの家族と職員の信頼関係の深さを知ることが出来た。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝の申し送り時やスタッフ会議に於いて、意見、提案を聞き、話し合いの上反映させています。	職員の定着率が高く、明るい表情で信頼関係がしっかり築けていると感じた。運営推進会議でスライドをテレビに移すことや両館合同の行事内容など職員の提案が進められていると聞いた。ケア面では、一人の利用者を職員それぞれの目でみた気づきを書き込む「マッピングノート」方式を採用しているため、職員は自分お考えや思いを表出しやすい環境が整っている。	訪問する毎に利用者と職員がしっかりと励まし合って行動している姿に感服している。又、その様子を運営推進会議等でテレビでスライドショーにして皆に見てもらっている。これは恐らくグループホーム業界NO.1 と思っている。これらをまとめて外部発表して見たらと思うのですが、例えば新聞とかテレビ等で。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の会議にて、各事業所の状況を把握し、又 随時の報・連・相にて対応されています。グループホームでは、楽しい職場づくりに努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設外の研修に参加し、スタッフ会議の場で施設内研修を行っています。職員、個々の力量を把握し、資質の向上に努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修に参加し、交流すると共に情報交換し、資質の向上を目指しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所面接時、生活状態、生活歴を把握するよう努め、できるだけ入所前にご本人に施設見学していただき安心して入所していただけるよう配慮しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	抱えている問題、困っていることを聞き、どのようにケアしていくことがご本人、ご家族にとって良いかをご家族とゆっくり話をしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様にとって一番良いと思われる方法を共に考え、情報提供しています。この方のニーズに合っていないと判断される場合は、系列の他施設を紹介しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者一人ひとりの尊厳を守り、生き活きと暮らせる環境作りに努めています。利用者と一緒に食事作りや行事をして楽しく過ごすようにしています。(26年目標達成計画実施)		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人とご家族との関係が希薄にならないように、行事に参加していただいたり、誕生会と一緒に祝いするようにしています。良きパイプ役になれるように努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や、友人、知人が面会しやすいような雰囲気作り、笑顔で対応するように心掛けています。娘さんと食事やショッピングに出掛けられたり、弟さんと食事に出掛けられています。	外部者との関係は家族に負うところが大きい。毎月の「お便り」できめ細かく暮らしぶりを伝えたり、個人別のミニアルバムを家族に提供するなどして、利用者、家族、職員との絆を大切にしている。リビングには全員が揃い、利用者同士が会話を楽しみ、少し困難な利用者には職員が寄り添い、サロンのような雰囲気があった。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	同じ目線で会話しながらできることをしています。一緒に本の読み聞かせをしたり、昔の話など、みんなで盛り上げられるよう配慮して楽しく過ごすようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も機会があるときや、必要に応じてご様子を聞いたり、入所されていた頃の様子を伝えるようにしています。次の入所先に時々立ち寄るようにしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	好きなこと得意なことやりたいことを聞いたり、感じ取ったりした上で、その人らしさを暮らしの中で発揮する力を引き出し、関わっていくようにしています。職員間で情報を共有し支援していけるように努めています。	一人の利用者を職員が自分の目でみた利用者像を書き出し、その後の対応に役立てる方式を編み出し実践している。利用者に対する色々な気付きや、他の職員の見方を参考にしながら日常生活の中から把握している。リビングテーブルには本や新聞、アルバム等を常設しており、自由に手にすることが出来ている。	毎日の利用者の行動から発する表情や言葉を観察して、具体的な気持ちに通ずる利用者の気持ちに注目していくと、もっと素晴らしい意向が見出されるかも知れない。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所面接時、生活状態、生活歴を把握するよう努め、ご家族の面会時に話の中で聞いた内容を職員全員で共有しケアに生かしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメント、カンファレンス、毎日の記録や、職員同士の情報交換で一人一人の状況の把握に努め支援しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族への近況報告を充実させ、ご本人、家族の意向を確認し、スタッフ会議でアセスメント、モニタリング情報を共有しカンファレンス後、介護計画を作成しています。必要に応じてDrなどの専門家の意見も聞いています。	管理者は、「今出来る事を実現させてあげたい」と様々な症状に対応した方法を日々の暮らしの中から探し出して、必要あれば関係者の意見を取り入れて介護計画書にあげ、モニタリングで評価している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子の記録と、バイタル、食事量、レク参加状況、入浴等の記録とプランに対しての実績、職員間のノートを活用し、介護計画の見直しや日々のケアに生かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来る事、やりたい事を日々探求し、一人ひとり違った能力の方がみんな笑顔で毎日過ごせるよう物作り、食事やおやつ作り、行事など充実させるよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者みんなで図書館に本を借りに出かけたり、八幡神社参拝、幼稚園の運動会、地域のお祭りなど、豊かな表情がみられ、散歩も楽しみの一つになっています。「お出かけすることで健康寿命を延ばす」を目標に楽しんでお出かけしています		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医が月2回往診に来られ、栄養指導もしていただき、本人、家族とも安心しておられます。又、他科受診時にはGHと主治医より紹介状にてスムーズに連携出来ています。	家族の希望により、入所と同時に提携医が主治医となっている。月2回の往診と緊急時の対応で適切な医療が受けられているので、利用者、家族、職員は安心できている。又、この病院の栄養士が利用者個々の状態を把握し、食事形態やカロリー摂取量を指示しているため、職員は不安のない食事を提供できている。専門医の受診は職員が同伴し、指示を仰いで、家族に状況を報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師来所時に、個々の状況を報告相談し、健康管理しています。利用者の思いを聴いたり、爪切り、耳のケアなどもされています。必要に応じ主治医、ご家族に連絡し早期対応に努めています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくり	入院時は利用者の状況を看護添書にて情報提供を行い、入院中の様子を聞き、退院時も状況把握する為連携をとっています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期については入所時に家族の意向を聞き、入所後は必要に応じ確認し、本人が一番安心、安全で穏やかに過ごせる所を相談し、支援しています。	看護師体制が整っていない現状では実現は困難であるが、その都度家族と話し合い、ホームとして出来る事の最善を尽くす使命感は持ち合わせているが、話し合いの上、同法人の施設へ紹介することが現状である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	スタッフ会議にて急変や事故発生時に備えての研修を行い、マニュアルをいつでも確認できる場所に置いています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間想定、日中想定で年に2回、消防設備の方の立会、地域住民の方の参加で避難訓練実施、今年度は地震も想定しました。災害時を想定した備蓄食体験し、避難に必要な物、避難経路について職員で話し合いました。	重要案件として運営推進会議でも熱心に協議されており、地域住民参加型方式を取り入れ、住民は「見守り」という役割を位置付けている。ホームに設置している自動通報装置は、隣りから隣りへ順次伝わる機種なので、多くの理を得ている。管理者は昨年発生している人的災害や地震災害など、あらゆる災害に対する意識を持ち合わせていく必要を感じていると話している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重しそれぞれに合った支援をするようにしています。(27年目標達成計画実施)排泄時(トイレの声かけ・パット交換等)プライバシーを尊重して声かけするようにしています。	このホームでは「何をするのも全員一緒にする」をモットーにしている。重度の利用者はいつも職員が寄り添い、利用者をさり気なく支えている。利用者はおぼつかない動作であっても、皆と一緒にいるというごく自然の表情で全ての活動に参加して、喜びを表わしていた。職員は「全員一緒にする」ことの意義を十分理解しており、押し付けのない支援が行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常的な会話を多くするよう心掛け、ご本人の思いを聞き出したり、寄り添い過ごす事で感じるようにしています。利用者様が自己決定できるような声かけに努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常のリズムの中で、利用者様一人ひとりのペースに合った生活をしていただけるように希望を聞きながら支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お化粧品、身だしなみ、おしゃれについての声かけをし、誉め言葉を添えるようにしています。出張理美容によりGHでカット・毛染めをされています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様と職員がみんなで一緒に食事作りを毎月行っています。会話の中ででた昔懐かし「一銭洋食」を作ってみました。会話も弾み楽しいひとときでした。出来ることを生き活きとされる姿を見るのが楽しみになっています。	食事は3食を当番職員が材料を買い出してから、料理を対面式キッチンで行っている。訪問日は旧暦の雛祭りを祝って彩り鮮やかなちらし寿司だった。利用者が、「きれいじゃなあ、ここの食事はいつも美味しいよ」と聞かせてくれた。提携医の栄養士が個人に合わせた刻み食、摂取カロリーを指導してくれているので安心して提供できている。隣同士で談笑しながら、食職員が寄り添いながら、食の進みにくい人には職員が寄り添いながら全員完食、楽しい食事風景であった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考えた季節の献立にしています。一人ひとりにあった食事形態、量を配慮しています。水分量にも気をつけ、摂取しにくい方には好きな飲み物を提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後一人ひとりにあった口腔ケアが習慣になっています。できていないところは声かけ、仕上げ磨きの介助し、口腔内の清潔保持に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様一人ひとりの排泄パターンにあった声かけ誘導を行い、排尿排便状態を記録し、トイレでの排泄が継続できるよう自立支援を行っています。	全員が声掛けと誘導と見守りでトイレ排泄が出来ている。個々の課題には職員が共通認識を持って対応している。トイレ内には「流す」「押す」「この紙を使ってください」の表示があり、混乱を排除した自立支援への配慮の策があった。「歩け歩け運動」は、失禁対策にもつながることを実証されている。今後も継続実施して排泄の自立支援の糧にして欲しい。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	1日1500cc以上の水分摂取(腎機能低下の利用者は1100cc)を促し、起床後、毎朝牛乳！10時のお茶の時間にはオリゴ糖を使用し、下剤を使用しないように便秘を予防、ヨーグルト等乳製品と野菜・肉・魚のバランスを考え提供しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	お風呂が楽しみな方が多く、入るのが面倒と言われる方も入ると「気持ち良かった」と笑顔を見せて下さいます。できない所はさりげなく介助しています。一緒に歌を歌うなど楽しい入浴を心掛けています。	入浴の目的は保清のみならず、ゆっくりと、職員とコミュニケーションを楽しんでもらう事を職員が共通認識を持って対応している。入浴時間帯は職員配置数を増やして対応し、ゆったりと入浴を楽しんでもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室で本を読まれる方、ホールでテレビを観られる方、利用者同士で会話される方々など、自由に過ごされています。就寝前は落ち着かれる様、個々にあった対応に努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局と連携し服薬管理しています。処方内容を薬品カードで確認し、服薬忘れの無いよう習慣化出来ています。状態の変化に応じ主治医へ報告、相談し対応しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事作り・草取り・洗濯干し・洗濯たたみ・モップ掛け・チラシで箱折り・など、感謝の意を表し達成感ややりがいを持てるよう支援しています。昔話や歌、新聞、読書などで笑顔がみられます		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は、散歩、庭で体操やレクリエーション、北館との交流をしています。桜、牡丹、あじさいなど季節の花を見に行ったり、祭りや運動会、図書館、ショッピング、外食など楽しんでいます。ご家族と外食やショッピングを楽しまれている方もおられます。(27年目標達成計画実施)	ホームは斜面にあり、道幅が狭いので困難はあるが、すぐ前にある神社も通路も車が進入出来ないが分、日常的な散歩コースとしては安全が確保できる環境にある。県北の長い冬場には、「歩け歩け運動」は全員で室内で取り組める活動となっており、好季節にはホームの敷地内で花を育てたり、食事会やお茶会等で外出気分を楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者一人ひとりの認知症の症状と、理解度の状況に合った対応を心掛け、ご本人、ご家族の希望に添えるようにしています。トラブルにならないように配慮しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族との電話の取り次ぎをしています。笑顔でお話しをされています。携帯電話を持ち込まれ、居室で使用している方もおられます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るいリビングで利用者同士がおしゃべりをしたり、新聞や読書、ゆっくりテレビを落ち着いてみて過ごしておられます。テレビでインターネットの昔の歌番組を口ずさんで観ている方もおられます。季節の飾りを利用者で作ったり、壁の飾りや花を飾ることで季節感を出しています。	利用者一人ひとりが作った満開の桜が壁面を埋め尽くし、雛段飾りの彩りを添え春爛漫のリビングで、利用者9人全員が一緒に歌を歌ったり、利用者同士が談笑したりしていた。手芸やレクの小道具が整然と配置され、女性9人の感性が集結して機能性と美観が調和した居心地の良いリビングである。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂やホールでいつもの場所があり、利用者同士が和やかに会話などされています。時に居室で横になったり、読書される方もおられます。職員が絶えず気配りをして落ち着いて過ごせるように配慮しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は家具、道具を利用者、ご家族が持参された物を置いています。ベッドや家具の配置も使いやすく安全には配慮しています。	拝見した居室は、ベッド脇に転倒防止の手摺があり、さらに出入り口との間に移動式の手摺が設置してあり、安心、安全の措置が講じられている。季節毎の衣類の入れ替えや部屋づくりは、家族や職員と一緒に楽しみ、小物や写真等で自分らしさを表現して居心地良さが感じられた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	台所・事務所・リビングから居室やトイレが見渡せ、わかりやすく位置しています。利用者の動きは把握でき、ホール内を自由に動かれています。		